

『東アジア言語文化論叢』

投稿のしおり

『東アジア言語文化論叢』に投稿ご希望の方へ

編集委員から (2022年2月15日)

☆投稿ご希望の方は、「投稿規定」および「投稿執筆要領」をご参照ください。

☆投稿ご希望の方は、指定された日時までに以下の E-mail アドレスに論文原稿データ及び投稿票を添付して送付してください。また、それと同時に、紙出力の論文原稿 1 編を下記の担当者宛に郵送してください。

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 番地

九州大学大学院言語文化研究院

辻野 裕紀 宛

E-mail: info@eassjlc.sakura.ne.jp

『東アジア言語文化論叢』 投稿規定

本誌の編集は、『東アジア言語文化論叢』編集委員会（以下「編集委員会」）が行う。

1. 本誌出版の目的

- (1) 研究成果を発表する場や意見交換する場を提供する。
- (2) 研究会の行事、東アジアの言語文化に関する「総説」や「展望」などを提供する。
- (3) 研究会の活動を報告し、執筆者の研究会活動への参画意識を高める。
- (4) 執筆者の知識の向上に資する。

2. 掲載記事

本誌には前掲の目的を達成するため、表 1 に示すような記事種目を設ける。記事種目には、編集委員会が依頼する依頼記事と、投稿記事がある。

2.1 依頼記事

- (1) 編集委員会が依頼原稿の種目ごとに表題などを決定し、執筆を依頼する。依頼ページ数は指定する。
- (2) 編集原稿は編集委員で閲読し、著者に照会、修正を依頼する場合がある。

2.2 投稿記事

執筆者各位が自発的に執筆し投稿する記事に、「論文」と「報告／研究ノート」の 2 種類を設ける。「論文」は、東アジアの言語文化に関する学術上、教育実践上の研究あるいは研究成果の記述であり、新規性、有用性などの点から会員にとって価値のあるものとする。

「報告／研究ノート」は、学術的、理論的な研究成果というまでには至っていないが、進行中の研究活動や教育実践等の紹介・報告で、会員にとって有用性が高いと思われるものとする。

- (1) 投稿者は原則として本研究会会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも 1 名は本研究会会員でなければならない。
- (2) 投稿種目「論文」か「報告／研究ノート」を明記する。
- (3) 投稿原稿は日本語あるいは英語で、次のページに示す刷り上がり標準ページ数に収まるようにする。
- (4) 投稿原稿のうち、論文については編集委員会で査読し、採否を決定する。
採択が決定した場合でも、著者に内容に関する照会や修正の依頼を行うことがある。
他の学術雑誌に投稿中または採択された論文と内容が同一の投稿原稿は受理しない。
- (5) 掲載された記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。

表1 記事種目

記事種目	内容	依頼	投稿	刷り上がり頁数
(1) 巻頭言	本研究会の会長や幹事などの抱負・所感	○		1
(2) 総説	当該研究領域および各専門領域における最近の動向などについて一般会員を対象として平易に解説したもの	○		6以内
(3) 展望	新しい理論、実践などの展望を比較的専門の立場から解説したもの	○		6以内
(4) 論文	学術上、教育実践上の研究あるいは研究成果の記述であり、新規性、有用性などの点から会員にとって価値のあるもの		○	20以内
(5) 報告／研究ノート	研究活動および教育実践等の紹介・報告		○	15以内

3. 投稿手続き

- (1) 原稿に論文、報告／研究ノート等の記事種目を明記の上、指定された日時までに投稿する。
- (2) 採択が決定した原稿は、毎年2月発行予定の集に掲載する。
- (3) 編集委員会と印刷会社との話し合いの上、入稿のための案内を同封するので、その指示に従い、最終原稿（オフセット印刷のため、校正なし）を指定された日時までに提出すること。
- (4) 著者は投稿原稿を取り下げることができる。この場合、書面で編集委員会に申し出なければならない。
- (5) 提出された原稿は返却しない。
- (6) 採択された原稿のうち、別刷りの希望がある場合には、実費で入手できる。

『東アジア言語文化論叢』 投稿執筆要領

(2022年2月15日 改定)

1. 原稿の構成

原稿は、採択ページの制限以内で、以下の(1)～(19)項目の順に構成する。

- (1) 記事種類 (論文、報告など、ゴシック、14pt、1ptの横線を入れる)
- (2) 表題 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、16pt、センタリング)
副題 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、12pt、センタリング)
- (3) 著者名 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、12pt、センタリング、連名の場合は「,」で並べる)
※投稿の際は記載しないこと (審査に公平を期するため)。掲載が受理された後、記載。
- (4) 所属、メールアドレス (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10pt、センタリング)
※投稿の際は記載しないこと (審査に公平を期するため)。掲載が受理された後、記載。
- (5) 要旨 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、[和文論文の場合] 600文字以内、10pt、
[英文論文の場合] 300語以内、10pt)
- (6) キーワード (6個以内、日本語はMS明朝/英数字はCentury、10pt)
- (7) 本文 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10.5pt、38字/行、35行/頁)
章の見出しに番号をつける ([和文論文の場合] MSゴシック、12pt、センタリング/[英文論文の場合] Century、12pt、太字、センタリング)
小見出し ([和文論文の場合] MSゴシック、10.5pt/[英文論文の場合] Century、10.5pt、太字)
本文中の専門用語については、簡単な用語解説を後述の「注」にすることが望ましい。
本文中に使用する記号には必ず説明をつける。
- (8) 図・写真
図と写真を一緒にしてつけた通し番号と説明キャプション (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10.5pt) を、図や写真の下の位置に記す。
- (9) 表
通し番号と見出しをつけ (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10.5pt)、表の上の位置に記す。
- (10) 謝辞 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10.5pt)
謝辞を必要とする場合は、謝辞という見出しをつけることが望ましい。できるだけ簡潔なものとする。
- (11) 注 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、9pt)
注をつけてもよい。ただし、できるだけ簡潔なものとする。本文中の関連箇所の右肩に注1、注2…のように書き、末尾 (参考文献の前) にまとめて記述する。
- (12) 参考文献 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、10.5pt)
参考文献の書式は以下の例にならうこと。なお、参考文献は、和文献→洋文献、の順にまとめること。

[和文献例]

- 庵功雄 (2008) 「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋大学留学生センター紀要』11, 47-63, 一橋大学留学生センター.
- 河上誓作 (1996) 『認知言語学の基礎』研究社.
- 澤田淳 (2016) 「指示と照応の語用論」加藤重広・滝浦真人 (編) 『語用論研究法ガイドブック』, 49-76, ひつじ書房.
- 田子内健介・足立公也 (2005) 『右方移動と焦点化』研究社.
- 野田尚史 (2015) 「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』158(2), 82-98, くろしお出版.

[洋文献例]

- Andersen, Gisle. (2000). The role of the pragmatic marker like in utterance interpretation. In G. Andersen & T. Fretheim (Eds.), *Pragmatic markers and propositional attitude* (pp. 17-38). Amsterdam: John Benjamins.
- Canale, Michael and Merrill Swain. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1(1), 1-47.
- Ellis, Rod. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.

(13) 本文中での参考文献の引用は、原則として以下のようにする。

[和文論文の場合]

- 澤田淳 (2016)では、…
…という (庵功雄 2008)。
野田尚史 (2015: 85)は、…
河上誓作 (1996)は、～について「 」(32)と定義している。
Ellis, Rod (1980)は、…
…が指摘されている (Canale, Michael and Merrill Swain 1980)。

[英文論文の場合]

- Canale and Swain (1980) mentioned ...
Grammatical competence is defined as “.....” (Canale and Swain, 1980, p. 29).
..... (Andersen, 2000).

(14) 付録

必要に応じて付録を設けてよい。ただし、採択ページ数の範囲とする。

(15) 著者紹介 (日本語はMS明朝/英数字はCentury、9pt)

下例のように枠付きで、氏名、所属、E-mailアドレスなどを記入する。

※投稿の際は記載しないこと (審査に公平を期するため)。掲載が受理された後、記載。

著者紹介

亀田鶴子：伊都大学外国語学部准教授

kameda@flc.ito-u.ac.jp

[以下は、和文論文のみ記す。]

(16) 英文表題 (Century、太字、14pt、センタリング)、副題 (Century、12pt、センタリング)

(17) 英文著者名 (Century、14pt、センタリング) 姓は全て大文字、名は頭文字のみ大文字、姓の後に「,」、名の順で書く。共著の場合は、半角 2 スペース分を空けて、共著者名を続ける。代表執筆者の右肩に「*」(アスタリスク)をつける。

※投稿の際は記載しないこと(審査に公平を期するため)。掲載が受理された後、記載。

(18) 英文要旨 (300 語以内、Century、10pt、1 段)

(19) 英文キーワード (Century、10pt) **‘Keywords:’** (太字) の後に半角スペースを入れて、最初のキーワードを書く。

2. 原稿の作り方および原稿作成上の注意

(1) 原稿は、1 行 38 字×35 行、A4 版、片面打ちの完成原稿とする。用紙の余白は、上下 30mm、左右 30mm。

(2) 図表は紙面の四隅に配置し、文章を分断しないようにする。印刷時の干渉縞を避けるために、網掛け、グレーは用いず、区別が必要な場合は線種やハッチングなどを用いる。著者の提出した原稿をそのまま印刷するので、特に図表の質に注意する。

(3) 写真を用いている場合は、写真の位置がズレる可能性があるため、提出の際、PDF 形式で保存したものも送付すること。

(4) 謝辞、注、参考文献、付録、著者紹介、英文要旨はそれぞれ、謝辞、注、参考文献、付録、著者紹介、英文要旨の見出しをつける。それぞれの見出しは、MS ゴシック、10.5pt の書式とし、最初の行に左寄せとする。

3. 原稿の提出形式

原稿を提出(メール送付)する際は、次の(A)(B)を必要とする。不足がある場合は、受け付けない。

(A) 論文原稿データ

(B) 事務局用として、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話番号、E-mail アドレス)、記事種目、表題、提出年月日を明記した投稿票(別紙 1)

上記(A)(B)を以下の E-mail アドレスに添付して送付すること。

E-mail アドレス : info@eassjlc.sakura.ne.jp

また、論文原稿データおよび投稿票をメール送付すると同時に、紙出力の論文原稿を 1 編、下記の担当者宛に郵送すること。

〒819-0395

福岡県福岡市西区元岡 744 番地 九州大学大学院言語文化研究院
辻野裕紀 宛

以 上